

THE MEIJI YASUDA CULTURAL FOUNDATION

いい人・いい音

公益財団法人 明治安田クオリティオブライフ文化財団

第22号

2017年1月4日発行

発行：明治安田クオリティオブライフ文化財団
編集：専務理事 醬油 和男
住所：〒160-0023
東京都新宿区西新宿1-9-1
TEL:03-3349-6194
FAX:03-3345-6388
<http://www.meijiyasuda-qol-bunka.or.jp>

助成制度の仕組みに思いを致して

有意義な留学生生活を

音楽評論家

丹羽 正明

(当財団理事・音楽分野選考委員長)



海外留学を目指す音楽学生の中から、抜群の技能を備え、強固な研修意欲を示す人材を選抜して、学資を援助するという、本財団の「海外音楽研修生費用助成」のプロジェクトは、既に四半世紀を超す歩みを刻んでいます。今年もまた新たに奨学生となられた方々には、心からの祝意を表したいと思えます。

ここで改めてこの制度の仕組みを考えてみると、そもそも芸術活動という、人間が美を追求・表現しようとする営みは、人類の精神生活にとっては欠くことのないものでありながら、採算という観点から見れば、およそ効率の悪い行為なので、芸術家には、他所からの支援が

不可欠であると考えられて来られました。

昔は、王侯貴族が芸術のスポンサーであったと言われますが、現代では、企業が芸術文化への支援に携わっています。「メセナ活動」と呼ばれるものです。

このように企業が社会貢献活動をする根拠は何処にあるのかと言うと、企業が営業をして利益を上げられたのは、世間の人々がその製品を購入したり、サービスに対価を支払ってくれたりしたからであるから、その収益の一部を社会に還元するのは当然の道理であるという考え方に依るものでしょう。

しかしその企業の側からすれば、従業員の汗の結晶である剰余利益の使い途は、先ず以て社員の福利厚生に回すべきだという考えが当然出る筈なのに、幾分でもそれを削って、社会貢献に拠出するのは、社長さんの道楽ではなくて、そのことが延いては、社会の一員である社員のためにもなるという考えに基づくものだからと思われる。形式上も、これ

は会社のストレートな宣伝行為ではなく、営業主体の会社とは別人格の組織である、この場合は、公益財団法人「明治安田クオリティオブライフ文化財団」という法人組織に基金を積み立てたところから、公益事業として助成金が支出されているのです。

このようなメセナ活動からの助成を貰うのは、決して施しを受けた訳ではありませんから、負い目を感じる必要は全くなく、むしろ、大きな顔でと言うと語弊があるかもしれませんが、そのお金の有効活用の担い手になれば良い立場です。でも、その原資の出所を考えて、関係者への感謝の気持ちを抱いたとしても決して罰は当たらないと思われま

す。海外留学とは、まよむり 毗を決して立ち向かう程の大袈裟な話ではないでしょうが、時にはここに述べたメセナ活動の仕組みにも思いを致して、有意義な留学生生活を送って下さることを願っています。

「海外音楽研修生費用助成」の

二〇一七年度 申込受付を開始

助成の趣旨等

当財団は、一九九一年六月の設立以来、「クラシック音楽分野における若手音楽家の人材育成」を目的として海外音楽研修や海外音楽コンクール参加のための費用の助成を行ってきました。過去26年間の助成対象者数は、合計175名です。

二〇一七年度においても、「海外音楽研修生費用」の助成希望者を公募いたしますので、助成を希望される方は主な音楽大学や音楽指導者宛に送付した「申込要領」または当財団のホームページをご覧ください。4月7日(金)までにお申し込み下さい。

1. 助成の趣旨

わが国のクラシック音楽文化の向上のため、国際的音楽家を目指して研鑽中の若手音楽家に対し、海外、特に欧米への留学に必要な費用の助成を行います。

2. 助成対象

海外の教育機関等に留学し、技術を練磨するとともに、その実体験を通じてさらに研鑽を深めることを志す方。(対象とする専門分野は、声楽・器楽)

・原則として音楽大学卒業(予定)者および大学院在籍者・修了(予定)者

・声楽は一九八四年九月一日以降、器楽は一九八九年九月一日以降に生まれ

た方
・海外留学についての計画と目標が明確である方

・二〇一七年から二〇一八年十二月末までに申込書に記載された教育機関等に入学が可能な方
・研修目標の達成に必要な語学力を有する方
※ 既に海外に留学中の方も対象になります。

3. 助成対象人員

・4名程度

4. 助成金額

・年額200万円

・助成期間は原則2年

申込手続書類等

1. 申込書

・所定用紙による。

2. 推薦書(2通)

・2名の方の推薦が必要。

・推薦書には、次の項目を必ず記入のこと。①あて先(当財団名)、②被推薦者

(応募者)の氏名、③推薦理由、④作成日(3ヶ月以内)、⑤推薦者本人の署名

3. 録音資料および録音証明書

(1) 録音資料

・本人の演奏を収録したオーディオCDまたはM

Dを提出のこと。(ピアノ

および管楽器の一部については楽曲の指定あり、詳細は申込要領にて確認のこと)

・二〇一六年七月以降に録音された演奏であること。

・応募者本人の演奏が明確に聴き取れる録音状態であること。(声楽の重唱・器楽の重奏等、個々の演奏者を識別しにくい録音は審査の対象外)

・オーディオCD(またはMD)は録音した曲目の楽曲構造に応じて、分割(トラック分け)し経過時間を記入のこと。

(2) 録音証明書

・応募者本人の演奏であることを、伴奏者(個人または団体)、演奏会主催者、録音スタジオや録音エンジニア等の録音に立会った関係者が書面により証明のこと。

・証明書には、次の項目を必ず記入のこと。①演奏者氏名、②録音日時、③録音場所、④曲目、⑤証明者の住所と電話番号、⑥証明書作成日、⑦証明者本人の署名

日程

1. 申込期限

・4月7日(金)必着(申込書類は簡易書留便による郵送を原則とします)

2. 選考日程

・第一次選考(書類・録音資料審査)は4月下旬

・第二次選考(第一次選考通過者に対する実技および面接)は5月26日(金)

【開催地 東京・新宿】

3. 結果発表

・6月上旬

選考方法

当財団の選考委員会で厳正に審査の上、助成候補者を選出し、その後、理事会の承認を経て助成対象者が決定されます。

詳細については、「申込要領」または当財団のホームページ

(www.meijiyasuda-gol-bunka.or.jp)を参照下さい。

い。

海外音楽研修生レポート

フランクフルト音楽大学大学院およびアンサンブル・モデルン・アカデミー



(作曲家 藤倉大氏個展演奏会において藤本史昭氏撮影)

(14年度助成・ファゴット)
中川 日出鷹
(留学先・フランクフルト音楽大学)

ボクにとってここでの一年間は貴重なものとなりました。特に室内楽の経験が豊富でスコアをどのように読み、時に演奏困難に見える楽譜を合奏や練習の際にどのようにして組み立てていくかをアカデミーやアンサンブル・モデルンのメンバーの中で学びました。個人的な演奏家の理想像としてクラシックから現代音楽まで精通した上で、どのように自分が存在するかを考えようと思っています。

この一年はクラシックの演奏家と現代音楽の演奏家の方向性の違いを意識せざるを得ませんでした。日本で演奏活動をしている頃、現代音楽を得意とすることがボクのファゴット奏者としてのアイデンティティでした。しかし、それについても自分自身に懐疑的になりました。技術的な難易度が高いと見なされる現代作品には特殊な技術や一度に多くの情報を処理することが要され、それを自分の血肉として表現できなければ意味がありません。現代音楽に興味が無ければ、その演奏は不慣れな印象を与えます。

す。そういう技術的な守備範囲は狭いよりは広い方が良いと思います。それに加え楽譜を尊重し、どのように解釈するかも経験や知性が要されます。今までは、それらの技術の有無と同一線上に自分の音楽家としての個性を捉えていました。これはまた異なる別の線の上になり立つ話であり、自分の演奏を違った次元で模索する新たな課題ができました。これまでも以上に自分の音楽に物足りなさを感じることが多くなりました。アンサンブル・モデルンのメンバーの個性的で知性溢れる演奏や解釈に触発されたからです。彼らは時間があれば音

「意志をもちこたえ」

階や練習曲やパッサージュを練習し自分としっかり向き合うようにしていました。ここで過ごした時間は現代音楽に限らず今後のボクの音楽解釈の道しるべとなるでしょう。ファゴット奏者で現代音楽に人生捧げている人は多くはないと思います。これまでの経験や知識が個人的なものに留まらず、共通の知識として広めることがボクの生涯の課題です。ドイツでも充実した時間を過ごすことができました。明治安田クオリティオペライフ文化財団の皆様、本当にありがとうございます。



(オペラ、ロッシーニ作曲「ランスへの旅」にマダム・コレテーゼ役
として出演時に撮影)

(15年度助成・声楽)
中島 桃子
(留学先・ウィーン国立音楽大学)

準備はしていたとはいえず、ウィーンに来た当初の私はいえ

ドイツ語は酷いもので、自分の意志を伝えたいのに間違っていたらカッコ悪いという私のちっぽけな見栄も邪魔をし、なかなか自ら話をすることができな

かった。寮での出会いは私を変えた。この寮は破格の安さだった。街からは遠く、人間風が入居する古い建物で、20人程を共同使用、脱衣場に付いてあるようなシャワーを譲り合っている。その後の3か月限定とはいえず、これまでもずっと実家で羽を伸ばして来た私には正直驚き、敬虔なカトリック信者で、近隣のあまり豊かではない国からの学生が多かった。彼らは皆ドイツ語を完璧に話した。朝から晩まで勉強に話した。ドイツ語が拙い私にも親切に接してくれ、そんな彼らと話をして、羞恥心といふ思いから、羞恥心と葛藤しながらも徐々に話をするうち、家族に話をさせた。国に貢献したい等、強い意志と覚悟をもって、彼らが勉学に励む現実を知り、留学をして技術を上達させたい、音楽が生まれた場所に身を置いて何かを感じ取りたい、等、ただ何かを学びたい、というだけの姿勢の私。はなんて目的意識が低く、甘ったれたご身分なのか、というところをつきつけられ、自らの歌い手になるため、の確かな糧を必ずこの地で得たいという意志が私の中にも生まれた。退寮後も彼女達とはコンタクトを取り続けており、ウィーンで職に就いて更に勇気と力をもたらしている。

そんな彼らと過ごした寮には地下に小さなピアノがあった。当時私はそこで毎日練習をしていたのだが、今日は昨日より良かった。今日の曲は気に入った。時折愛のある批評をもらっていた。そして先日大学のオペラ公演にその友人を招待したとき、久しぶりに彼女から講評をもらった。2年前より大分上手になったね、桃子が頑張ってきたことがよく分かった、おめでとう、と。思いがけず涙が出た。そうなる程嬉しい出来事だった。

「国を跨ぎ続けて」



(2016年6月マッサローザ国際ピアノコンクールで優勝した時に撮影)

(15年度助成・ピアノ)

齊藤 一也 (留学先・パリ国立高等音楽院)

パリでの留学生生活を始めたのも遡ること5年前。当初の秋のヨーロッパは寒波の影響で、とても寒いスタートだったことを思い出します。当時は、マレ地区の国際学生都市という世界中からの芸術家達が住む大きなマンションに住んでいて、周りの仲間達はみんな音楽家だったこともあり、練習環境もよく実際の生活面でも特に関心するようないくつかありませんでしたが、語学に関しては、やはりまだ慣れない頃は、パン一つ買うのも緊張してしまうような有様。留学生が最初にやらなければいけないO.F.F.Ⅱ(移民局)での健康診断で、医師に聴診器を当てられながら職業を聞かれ、しどろもどろに「音楽院の学生です。」と答えた途端、「君の心拍数はメトロノームでいうPiscesだね！」なんて冗談を言われたこともありました。

パリ国立高等音楽院では日本では学べないようなユニークな授業が沢山あります。オンド・マルトノという特殊な電子楽器を演奏したり、エクリチュールという音楽の書法を学ぶ授業では、バッハのコーラルやフーガ、またマーラーやワーグナーなどの後期ドイツロマン派からフォーレの複雑な和声法に至るまで、先生と生徒同士で色々議論しながら各々の書法スタイルを学びました。そんな多方面での勉強の成果もあり、ピアノ演奏においても技術的・音楽的な面で大きく成長できたと思います。国際コンクールでの優勝の経験も増え、特に最近はいんやイタリアなどでも演奏会を頂きました。日本のように整った環境の中で弾けるといことはごく稀で、時には10年以上調律していないピアノに出会ったり、高さの全く合わないパイプ椅子で弾かされたりということがあります。しかし、最近はどういった外国諸事情も理解した上で、ひとつひとつの貴重な経験に対して、「意思と責任」、そして音楽家であることの意義を強く考えさせられるようになりました。

5年間の集大成である修士論文も無事提出し、パリ音楽院もついに卒業を迎えました。来年度からは新天地であるドイツのベルリン芸術大学にて勉強を続けたいです。国を変えると同時に、パリで最初に経験した寒さや語学の壁を再び体感すると思えば、益々気が引き締まる思いですが、今後も努力を惜しまず精進していくと、さる貴財団の方々には心から感謝しております。

「挑戦」



(普段のレッスンにてベレーニ・エステル先生とともに撮影)

(15年度助成・ヴァイオリン)

長尾 春花 (留学先・リスト音楽院)

私が何かに迷った時、ハングリーで師事しているベレーニ・エステル先生は仰る。「あなたは何でも(挑戦)できる、やってみてから選べばいい、やってみないと選ぶことすらできないんだから」。その言葉にいつも後押しして頂き、好奇心旺盛な私は、更に前向きに挑戦していくことを選ぶようになった。

2015年9月より、東京芸術大学大学院博士課程を休学し、研究テーマであるバルトークを学ぶため、ハングリーへ留学している。レクサスがある中、初めは音を出すという基本的な部分で行き詰まり、当初先生が「違う」と仰っても、私には何が違うのかが分からなかった。ヴァイオリンの技術面でも、生活面でも、様々な変化が同時に訪れる中、最初は日本人留学生と励まし合うことが多かったが、次第にハングリー人や、日本人以外の留学生との交流が深まり、室内楽やコンサートなどの声をかけてもらえるようになった。

古楽のマスタークラスにも興味を持ち、エステルハルツでバッハ漬けになり、アカデミーでは、初めて日本のオーケストラ以外でコンサートマスターを経験することとなった。世界中から集まったメンバーの前に、初めは非常に怖かったが、リハールや食事を共に重ねる中で徐々にその緊張は溶け、上手くいった時にはハグを手に集まってくれた仲間にも励まされ、様々な国民性やエネルギーに圧倒されつつ、素晴らしい音楽と共に非常に濃い体験をした。

丁度その真ん中で、偶然にも私の演奏を聴いてくださったことのあるハンガリー国立歌劇場のディレクターから、コンサートマスターのオーディションを是非受けてみてとのご連絡を頂き、迷いの気持ちもよぎったが、思い切って応募することにしました。書類審査

を経て迎えた当日、衝立越しの演奏で1次、2次と通過し、驚いてる間も無く3次へ。衝立がなくなつた最終選考ではバルトークの協奏曲（1楽章）を途中で止められることなく最後まで演奏させて頂け、沢山のブラボーやハグ、キスを頂いた。バルトークの勉強をしに来て、ハンガリー人に「あなたバルトーク、本当に素晴らしいことだった」と言ってもらったことは私の中で一つ大きな自信になつた。結果、ハンガリー国立歌劇場管弦楽団のコンサートマスターになれることとなり、これから私にとって大きな変化が始まるうとしていた。

全てのチャレンジを楽しみ、歴史ある環境の中で直に学び続けられる喜びと共に、今後も沢山の困難に果敢に向かつていきたいと思う。これまで多大なるご支援をくださった財団に、心からの感謝を申し上げます。

「ドイツ、楽器工房の国」



（バイロイト音楽祭に訪れたときにワグネル像とともに撮影）

（15年度助成・チューバ）

麻生 雄基

（留学先）

ワイマール・フランツリスト
音楽大学

ドイツのほぼ真ん中に位置するワイマールでチューバの勉強をしています。「い

い人、いい音」の海外研修生レポートでは毎回たくさんの方々が留学に向けて役に立つ情報や為になるお話を寄稿されていますので、今回私はチューバ奏者という視点から見た楽器購入や、修理、改造などのドイツ事情をお話したいと思います。

す。

ドイツでは楽器屋さんから楽器を購入するだけでなく、事前に予約を取り、実際に工場に向いて試奏し、沢山の可能性の中から自分に合うモデルや楽器を選ぶことも一般的です。また、ドイツには大小問わずたくさん楽器工房が存在します。それぞれの工房でしか見ることのできないモデルの中には日本に輸入されていないものもあり、それら全て試奏することが出来ます。また、その場で細かな要望（例えばマウスパイプの高さなど）を伝えればその場で手直ししてもらえ、これも工場では楽器を選ぶメリットです。奏者のニーズにより柔軟に対応してもらえ、という事です。

選別が特に難しいもの一つにマウスピースがあります。顔の形や奏法、また音色の好みなどによって、実に多種多様な可能性が生まれてくるからです。しかし、例えばその中で一つでも自分の好みに当てはまる要素があれば、実際にマウスピースの工房に行つて、カップの形や深さ、その他のディテールの要望をマイスターに伝え、一緒に試行錯誤し、楽器工場と同じよ

うにその場でコンマ単位の改造をお願いすることも出来ます。

最後に修理に関してですが、今年の7月から私は楽器をオーバーホールに預けています。通常1ヶ月から最大3ヶ月程度で終わるオーバーホールですが、夏休暇を挟んだ為、修理部品の到着が遅れ、未だに終わっていません（11月6日現在）。ドイツでは時間外労働はほぼしない為、何か急なトラブルがあった時にいつでも対応して下さる日本とは勝手が違ってきます。一筋縄ではいきませんが、電話やメールで催促しながら（笑）、気長に待つという事もドイツで生活する上では必要なかもしれません。ドイツに来て4年目になりましたが、未だに失敗や上手くいかないこともあり、音楽を勉強できている事は貴財団をはじめ周りの方や家族の支えがあつてこそです。日々感謝の気持ちをお忘れず邁進して参ります。

日本音楽コンクール

明治安田賞受賞者（作曲部門）

日本音楽コンクールの作曲部門は、作曲家の方々がデビューの足掛かりとしてきた重要な部門ですが、当財団は若手作曲家の励みとなるよう財団発足の91年度から部門の最優秀者に対し「明治安田賞」（賞金50万円）を寄託し、次の方々が受賞されています。

91年度	（第60回）	山洞 智
92年度	（第61回）	藤満 健
93年度	（第62回）	原田 敬子
94年度	（第63回）	望月 直
95年度	（第64回）	若林 千春
96年度	（第65回）	なかにし あかね
97年度	（第66回）	
98年度	（第67回）	大場 陽子
99年度	（第68回）	三浦 則子
00年度	（第69回）	小野 貴史
01年度	（第70回）	名倉 明子
02年度	（第71回）	朴 銀荷
03年度	（第72回）	中村 寛
04年度	（第73回）	横澤 一人
05年度	（第74回）	篠田 昌伸
06年度	（第75回）	山根明季子
07年度	（第76回）	稲森安太己
08年度	（第77回）	江原 修
09年度	（第78回）	中辻小百合
10年度	（第79回）	三宅 悠太
11年度	（第80回）	魚路 恭子
12年度	（第81回）	平川 加恵
13年度	（第82回）	網守 奨平
14年度	（第83回）	杉本 友樹
15年度	（第84回）	東井 俊介
16年度	（第85回）	白岩 優拓



助成対象者の皆さんから寄せられたお便りを助成年度、専攻部門の順に掲載しました。

1991年度助成

千葉 純子

(ヴァイオリン) すべてを自分のために費やせる時間があつた若かりし頃とは違い、今では仕事に加え二人の子供の母親としての役割が大きな比重をしめ、気持ちも時間もなかなか思い通りにいかない日々を過ごしています。

自身の勉強の時間を確保できるのは夜中：体力勝負の毎日です！お仕事で一緒にいる方々の中には、色々な環境の中で素晴らしい活躍をされ、輝いておられる方が大勢いらつしやう、勇気と刺激をいただいております。レッスン室に入り楽器を手にした時、ステージに立っているときの開放感、私の中でもとても充実した時間を味わえるときです。音楽とともに生きてこられた人生を幸せに思います。今年、2年ぶりのリサイタルを企画しています。また、トリオ、室内楽、新しくなった紀尾井ホール室内管弦楽団での活動も楽しみにしています。

鈴木 優子

(打楽器・ハンブルク在) ドイツでは、2015年12月に初演を行った「そして船は行く」ハンブルク市立ドイツ劇場に引き続き出演しています。同作品は本年5月のベルリン演劇祭に招待(ドイツ語圏で上演された注目すべき10作品に選ばれました)されるなど、高い評価を受けています。

日本では、主に幼児とその保護者を対象にしたワークショップを、横浜で定期的に開催することにいたしました。打楽器を用いて、音の出し方、音楽に触れる楽しさを参加者の方々に感じていただくことを目指しております。

1992年度助成

志茂 征彦

(ピアノ) 私はヨーロッパ、とりわけイギリス留学中にリートの世界に引かれて以来、力をこの分野に注いできました。言葉と音楽の融合とでも言うべきリートは声とピアノによる芸術であり、歌い手とピアニストとの想像や解釈の共有によって生み出されます。これまでにはシューベルトやブラームスの演奏はもとより、日本ドイツリート協会の主催によるヒンデミットの歌曲集「マリアの生涯」全曲演奏会、R. シュトラウス生誕150年にちなんだ歌曲連続演奏プロジェクト、詩人メーリケ没後140年に寄せた、ヴォルフのメーリケ歌曲集リサイタル等を行いました。

また、「リスト音楽院の仲間たち」と題したトッパンホールでのコンサートに、一昨年に続き今年の6月にも出演します。

田中 晶子

(ヴァイオリン) 東京文化会館小ホールを中心に各地でリサイタルツアー。(ミュンヘン国際音楽コンクールデュオ部門で共に入賞したパートナーピアニストと。)

日本学生音楽コンクールの審査を務める他、ヨーザールの魔法のバイオリンなどの子供のためのコンサートも開催。ドイツのハレでマスタークラスその他、リサイタルや音楽祭の出演などが予定されています。

梅津 千恵子

(打楽器) 明けましておめでとうございます。昨年2月に「パーカッションメッセージ(大地の響宴)」をすみだトリフォニーでプロデュース。アンサンブルの多いコンサートながら、自分の想いや、音楽と人の繋がりをテーマに全曲演奏。そのコンサートは、かつてのお弟子さんであり現在はメキシコ・チャパス州立大学で准教授をされているマリンビスト古徳景子さんとの共演でもあり、心身ともに充実した欲びをもたらすものでした。そのコンサートでの成功をきっかけに、国際交流基金の助成を受けて、メキシココンサートツアーを実行。11月には国内で

1994年度助成

樋口 あゆ子

(ピアノ) 私はお陰様で元気にコンサートとFM横浜の司会をさせていただいております。2年前に誕生いたしました私たちの長女も今年から幼稚園の予定で、幼稚園ママピアニストとしてパパバタの日々だと思いますが、皆さまのお力を頂きながら音楽活動を精進して参りたいと思います。財団の皆様もどうぞお元気でお過ごしください。

マリア・アヤ・アシユリ

(ヴァイオリン・ボン在) この原稿、トランプが大統領に選ばれた日に書いています。ヨーロッパにも、人種差別的な発言を繰り返す政治家が増え、貧富の差が広がる世界はいつたようになっています。人の心を癒したり変えたりできないでしょうか。私達ケルン放送響も、聴きやすい短いコンサートや、子供達の為の演奏、インターネットでの紹介などで、人々を引きつけようと頑張っています。私個人も、室内楽やハウスコンサートなどを企画し

ています。10月にはケルン放送響の日本公演が予定されていて、楽しみです。

松岡 みやび

(ハープ) 新年おめでとうございませう。最近インスタグラムをはじめたので、ハープの演奏動画をアップしています。国内外より数千人の方々が毎日見られていて、老若男女問わずたくさんコメントが届きます。音楽に興味のない人にも伝わるハープの新たな魅力に気づきを得ています。

テレビ番組「ナカイの窓」でSMA P中居正広さんにハープを教えたり、元内閣総理大臣の鳩山由紀夫さんとご飯を一緒にして音楽について語り合ったり・・・と様々な分野から刺激を受けて充実している日々。音楽仲間の皆様にもインスタグラムご覧いただきご指導おねがいできます。たら嬉しうす！ http://instagram.com/miyabi_natsuka

神田 寛明

(フルート) 前号に寄稿させていただきました「神戸国際フルートコンクール存廃問題」ですが、関係各位のご尽力により2017年5月・6月に開催されることとなりました。世界各地の音楽家からの応援メッセージ、神戸を中心とする関西、日本全国から寄せられたご支援、大口のご寄付、昨今の厳しい社会情勢にもかかわらず存続の決断をしてくださった神戸市長ならびに関

係各位に、運営をお手伝いする立場からもあらためて感謝申し上げます。
なによりも嬉しかったことは、充分な告知期間を取ることができなかったにもかかわらず、前回を超える参加申し込みがあったことです。世界中のフルーティストが「神戸」を待ち望んでいたのです。広く市民に親しまれるコンサートとして今後も長く続くことを願ってやみません。

昨年8月に神戸市で行われたアジア・フルート・コンダレスは、神戸市のご援助をいただき大成功を収めることができました。

私事では、桐朋学園の専任教員を仰せつかりました。(NHK交響楽団首席フルート奏者 桐朋学園大学教授 アジア・フルート連盟常任理事 第9回神戸国際フルートコンクール運営委員長)

1995年度助成

大森 潤子 (ヴァイオリン)

札幌在団も11年目に入り、相変わらず、アウトリーチ等の個人的な活動も続けさせて頂いています。

毎初冬の札幌・北星学園大学チャペルでのバッハ無伴奏シリーズも、9回目を無事終えました。音大生に限らず北星学園大のゼミ生に対しても、機会があれば、日本の外に出て見聞を広めることは大事だと話していますが、昨今の欧州でのテロなど考えると、海外に出る事が昔とは違

う意味で難しくなってきたと感じています。

その一方で、今も尚、世界中を飛び回って活躍するパリの師匠の姿に接するにつけ、やはり、自分が留学で得た出会いや経験の大きさは計り知れないものだと再認識し、私は良い時期に留学させて頂いたのだとつくづく思いますし、その経験を生かした活動をしていきたいと、これは常々思っています。

2017年は、九州・沖縄での演奏会、札幌キタラホールでのウィーン室内管弦楽団との協奏曲共演などが予定されています。

志茂 美都世 (ヴァイオリン・イギリス在)

元気で頑張っています。イギリスの大学のレクチャーコンサートで演奏したり、日本ではリサイタルの予定があります。他には演奏以外のことにも挑戦しています。

玉井 菜採 (ヴァイオリン)

いつの間にか、東京藝術大学で教員をつとめるようになりました。15年目となりました。

留学から帰国して2年目に職を得た頃はまだ学生と間違われる有様で、「ほんの少し先輩に立場から」というような気持ちでレッスンをしていました。

15年経ちましたが、教えるという事は、ともに学ぶという事でもあり、学生と過ごした時間は、自分にとってより深く音楽と関わる時間だったと思います。

たと思います。これからも、自分自身が小さな発見を重ねながら、音楽の豊かな世界に分け入って行けたら、と願っています。

石橋 幸子 (ヴァイオリン・チェリツヒ在)

昨年は、名古屋フィル首席奏者でビオリニストの姉の直子とのモーツァルトのコンサートとタンテの共演がとても心に深く響き、幸せな瞬間で忘れられない経験になりました。その他にも沢山の室内楽コンサートで日本でも演奏させていただきました。

そして夏には、「メニユー国際音楽フェスティバル」に、弦楽三重奏の「トリオ・オレアーデ」が招かれ、デビューコンサートを行いました。大変好評をいただきました。その活動が認められて、2017年9月からは、スイス音楽財団より、名器ストラディバリウスを貸与される予定です。期待に胸を膨らませています！先日、一時的にお借りして、ストラディバリウスを演奏させていただいたので、その深く優しい黄金の音色に、涙が止まりませんでした。また日本でもその音色をご披露できれば嬉しく思います。これからもどうぞ宜しくお願い致します。trio-oreade公式ホームページ (www.trio-oreade.ch)

1996年度助成

磯 絵里子 (ヴァイオリン)

昨年もソリストとして、ま

た鎌倉芸術館ゾリステンのメンバーとしての公演の他、アンサンブルΦ(ファイ)やデュオ・プリマなど、室内楽の分野でも様々な演奏会に出演させて頂きました。

子供のためのコンサートや学校訪問コンサートなど、地域創造アーティストとしてのアウトリーチ活動でも、沢山の地域にお邪魔して、子供たちとの楽しい交流とクラシック音楽の啓蒙に多少の貢献ができたのではないかと思っております。

FMヨコハマ「磯絵里子の SEASIDE CLASSIC」のパリソナリティとして7年目を迎える、多くのリスナーの皆様からの反応も多く、演奏会にも足を運んで頂き、嬉しい交流がありました。今年2017年はデビュー20周年の節目を迎え、記念のCDリリース、リサイタルを予定しています。

私にとつて海外留学の経験が、大きな財産として今があります。海外留学中の若い皆様の今後の活躍も楽しみにしています。どうぞ留学の一日一日を大切に頑張ってください！

私の演奏会や活動は下記HPまたはブログで新着スケジュールを公開しております！ <http://www.34.net.com/eriko> <http://yaplog.jp/iso-diary/>

1997年度助成

泉 良平 (声楽)

2015年の暮れより25年近くお世話になった東京二期

会より日本オペラ振興会(藤原歌劇団、日本オペラ協会)へ移籍を致しました。心機一転、様々な舞台上に臨んでおります。

今年は3月に東京と高知で原嘉寿子先生のオペラよさこい節に主演をいたします。4月5月8月と、ラ・ボエームアイーダ 道化師のイタリャオペラを歌う予定です。教育活動としては、洗足学園音楽大学客員教授として後進の指導を送っております。

山崎 貴子 (ヴァイオリン)

帰国して12年経ちました。演奏活動やレッスンなどをしながら、日本では何故か、気が付くと時間に追われる生活になるのは、私だけでしょうか。ふと留学時代に立ち戻つてみる、あの時を再確認して、学んだことを再確認して、それが出来たことの幸せと、支えて頂いた当財団の有り難みを改めて感じた2016年でした。

紀尾井シンフォニエッタ東京、改め、紀尾井ホール室内管弦楽団での活動と、アーニマ四重奏団で2016年『マンデルズゾーン弦楽四重奏曲全曲演奏会』に続き、2017年『シューマンとブラームスの弦楽四重奏曲全曲演奏会』を開催します。

1998年度助成

黒木 香保里 (声楽)

昨年は、故郷宮古で、第九

を歌いました。オケは、岩手県民オーケストラ、合唱は、故郷宮古市民合唱団です。どうしたら、涙を流さずに、最後までステージに立つことができるのか、そんな、気持ちで、本番にのぞみました。

あの日から5年。故郷宮古の空高く、第九が響き渡り、オーケストラも合唱団も、ソリストも、そして、お客様みなさまと、一つになる。そんな、経験を、初めていたしました。今まで、これほど、音楽に感謝した瞬間はなかったかもしれない。魂が震える瞬間を持ったことはなかったかもしれない。

9月は、故郷宮古に台風が直撃し、また、大きな被害がありました。これからも、微力ながら、故郷のそして被災地の子供達に歌っていく活動をしていければ、と、願っております。

島田 真千子

(ヴァイオリン)

明けましておめでとうございます。今年が皆様にとって素晴らしい一年になりますように、心より祈念しております。昨年は、私にとりまして40歳という節目を迎え、かねてからの夢であったパッパ作曲の無伴奏ソナタ&パルティータ全6曲のリサイタルを行いました。たくさんの方々の支えあってここまで来れた事、感謝の気持ちでいっぱいです。

今年もソロコンサートマスターを務めるセントラル愛知響、メンバーである水戸室内管弦楽団の公演や、サイトウ

キネンオーケストラで出会った同世代の仲間と結成したヴェリタス弦楽四重奏団での活動などを通じて、全ての音楽や人との出会いを大切にしていきたいと思っております。

2000年度助成

諸田

広美

(声楽)

昨年は今までの人生の中で、一番濃い年になったかと思えます。3月に初めて国立劇場の舞台に立ち、6月は藤原歌劇団に移籍後初のコンサート、秋・冬は昨年の第1回ロシア声楽コンクール優勝絡みの演奏会が続き、ロシア作品を沢山歌いました。

また、昨年の大きな変化は、春頃から急に生徒さんが増えたことでした。指導する合唱団も3つになりました。演奏活動しながら、それだけの人数を抱えることは容易ではないと実感しましたが、同時に皆に歌の文化が広まっている実感もあり、喜ばしく思っています。ほとんど休みなく動いた年の締めは、10年ぶりのヨーロッパ旅行。今回の旅は最初合唱団メンバーも同行し、一緒にシチリアで「蝶々夫人」の舞台に立ちます。その後、主人と6ヶ国を巡って、年明けまで演奏してきます。

シユレイファアー

三子

(ハーブ・ガラス在)

皆様にはますますご清祥のこと存じます。2016年はガラスシンフォニーの演奏が多く、こちらでは同じプログラ

ラムのコンサートが4日間続いたため、オーケストラの演奏に明け暮れた年となりました。他の仕事との兼ね合いや息子の送り迎え等、どうやって時間をやり繰りするか、それを考えている間にひとシーズンが終わってしまっただけな気がします。

今シーズンには出産以降控えていたリサイタル等も再開する予定です。これを書いている今はアメリカ大統領選の前日、果たしてどのような結果になるのか、国民一人一人の一票の重さをひしひしと感じる投票になることでしょうか。(私はアメリカ国民ではないので投票は出来ません。)果たしてアメリカはどこに向かって走り始めるのでしょうか!

藤井 香織

(フルート・ニューヨーク在)

皆さまこんにちは。このお便りを書いて10月、こちらにニューヨークはすっかり秋になりました。現在、前代未聞の大統領選真っ最中!皆さまでこのお便りを読んで下さる頃には、もう決まっていますのですよね。うーん、どうなっているんでしょう。

さて、2016年は、学生音楽コンタールの審査をさせて頂き、日本のたくさんの方の若手才能に触れることができました。日本の中高生はすごいですね!これからもぜひのびのびと音楽に触れてほしいな、と心から願っています。

私は2年前にアメリカで設立したNPO、Music Beyondの活動が本格化し始め、現在

中央アフリカのコンゴ民主共和国を度々訪れて、音楽家の指導にあたっています。現地の供給源では成り立たない途上国や地域での音楽教師育成にフォーカスし、音楽を通して過酷な状況下で生きている人々にやる気と自信、達成感を見いだして生きたい、最終的に希望を持てたならば、その思いが少しでもできたら、と願っています。もしご興味があれば、ぜひ、www.musicbeyond.orgを覗いてみて下さいね。

こんな活動をしようと思っただけのも、そして自信を持ってできるのも、明治安田クオリティオブライフ文化財団から頂いた奨学金で、最高の教育を受けさせて頂けたから、と、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

それでは、2017年が皆さまにとって、希望と幸せに満ちた一年になりますように。(Founder & President of Music Beyond, Inc.)

2001年度助成

三上 亮

(ヴァイオリン)

2016年の春にニコロ・アマティを貸与されました。楽器の魅力を引き出すように日々精進したいと思っています。昨年は夏にダンスとのコラボレーションでストラヴィンスキーの兵士の物語を8回演奏しました。楽しい演出もあり、貴重な経験となりました。2017年は春に愛媛、福

岡、東京、札幌でリサイタルを予定しています。

大石 将紀

(サクソフォン)

グレイス西藤道子さんという方はクラシック音楽会に広く貢献されたかただと思いますので、皆様にお知らせしたいと思います。

東京グレイス会のグレイス西藤道子さんがお亡くなりになりました。グレイスさんはクラシック音楽のコンサートを通して人と人をつ結び、その収益金を寄付し、ベテランの素晴らしい音楽家から留学から帰ったばかりの僕のような駆け出しの演奏家にも演奏の機会を与えてくださったような活動をされてきました。

華やかなお人柄でキラキラとした世界にいらっしやる方がとうございました。心よりご冥福をお祈りします。

2002年度助成

柳原 由香

(声楽・ベルリン在)

2016年は、Münchner Kammeroperに「ベツリニのオペラ」夢遊病の女」でアミーナ役で初演があり、公演は2017-18シーズンまで行われます。8月には、エストニア・タリンにて、タリン交響楽団とモーツァルトのレクイエムでソロを歌わせていただきました。その他、現代オペラのアンサンブル Opera Lab Berlinの世界初演「Gunfighter Nation」、オペラ・カンパニー Novoflotの公

演に出演など、前衛的な舞台音楽のオペラプロジェクトに多く参加させていただきました。

2017年は、1月にドイツ・エアランゲンの劇場でエルフリーデ・イエリネック作の「Wut」という作品に、そして、フランク・シュトラースブルクにて「夢遊病の女」の客演、5月から7月にかけてコンスタンツ劇場にて舞台「La nave va」の中でヴェルディのレクイエムのソロで出演します。4月には日本での日本歌曲を室内楽で歌う予定です。

2003年度助成

市原 愛 (声楽)

今年度は京響とのニューイヤークンサートからスタートし、4月には東京シティ・フィルとオペラ「万葉集」(演奏会形式)、7月にはイタリアから来日するトリオ王立歌劇場トリオと《椿姫》や《カルメン》などのオペラ・ハイライトを歌わせて頂く他、まもなく公開となる話題の映画(まだ公表出来ず残念...)の主題歌も既にレコーディングを終えております。

山辺 絵里 (ピアノ)

ロンドンから東京に拠点を移して5年、現在は演奏活動の傍ら母校の東京音楽大学ピアノ科講師として後進の指導、国際ピアノコンクールの審査員等もさせて頂いています。

恒例となったよみうり大手町ホールでの定期公演も2017年は11月12日(日)に決定。併せて4枚目のCDリリースの予定もあり、多忙ですが充実した日々を送っています。

2005年度助成

臼木 あい (声楽)

昨年度より、上野学園大学に加えて国立音楽大学でも教鞭をとらせて頂いております。若い学生に自身の経験、とりわけ留学中に感じたことなどを伝えるのは、私にとっても学生にとっても大きな実りであるように感じております。

出産してから舞台に立つ機会は減りましたが、それでもこの原稿を書いている今は、11月に出演させて頂くオペラ「ドン・ジョヴァンニ」のドンナアンナ役を勉強中です。家庭・大学・演奏のバランスを上手く取りながら、しっかりと毎日を過ごしていきたいと思っております。

遠藤 真理 (チェロ)

NHK EFM「きらクラ」は5年目を迎えました。ラジオを通して全国の方からお便りを頂くこと改めて日本全国に放送されていることを実感します。

昨年は上原彩子さん、菊池洋子さんとのリサイタルをしました。お二方の素晴らしきピアノストから学ぶことはとても多く、楽しかったです。

オーケストラの首席としても何度かコンサートに出演しました。大編成でシンフォニーを演奏するとオーケストラは大きな室内楽だと改めて実感し、難しさも感じました。

2006年度助成

江田 雅子 (声楽・ベルリン在)

ドイツ・ベルリンの在ドイツ日本国大使館大使公邸にて天皇誕生日を記念する式典が開催されました。昨年に引き続き、日本とドイツの両国歌を斉唱させて頂いた機会に恵まれました。国歌を通し、各国のご来賓の方々や世界の平和と友好を願う素晴らしいひと時を持つことができました。同時に、これまで師事した先生、お世話になった方々、友人、そして家族を想う、感謝の深まる師走となりました。

佐藤 卓史 (ピアノ)

2016年はテレビ番組のレギュラー収録や船上でのコンサートなど、新しい経験をたくさんさせて頂きました。2014年から始めたシューベルトピアノ曲全曲演奏会も、第6回まで終了。完結まではあと12年ほどかかりそうですが、暗中模索だったスタート時に比べると、少し先の見通しが立ってきたかな、といったところです。
www.takashisato.jp

2007年度助成

中村 恵里 (声楽・ミュンヘン在)

昨夏、6年勤めたバイエルン国立劇場の専属から離れ、フリーランスとして活動しています。現在、ウィーン国立劇場での公演に参加しており、同時進行で来年の演目の準備に追われています。変わらぬ慌ただしい日々ですが、これからのミュンヘンを拠点に、より良い演奏を志し活動して参ります。

2017年は特に国内での出演が多く、久しぶりに長く日本に滞在できることを楽しみにしています。

上江 隼人 (声楽)

歌手にとって経験ができる場は本当に大事なことです。昨年はトロバトーレ、アンドレア・シエニエ、セビリアの理髪師 トスカと4本のオペラの勉強できました。今年も一つでも多くの経験、勉強ができるよう頑張ります。今年度は年始のNHKのお仕事から初めですが、初心を忘れないで頑張ろうと思っております。こちらからもご指導ご鞭撻の程何卒宜しくお願い致します。

2008年度助成

クリスティン・木実・ウィットマー (声楽・オランダ在)

ここ数年間、ベルギーのグループでヴォックス・ルミニクス Vox Luminis というアンサンブルと共にプロジェクトを多くやらせてもらっています。

が、今回はその彼らと最近録音したアルバムをご紹介します！

昨年11月にAlpha Classics からリリースされたばかりのACTUS TRAGICUS / BACH CANTATAS BWV 106, 150, 131, 129です。指揮者の居ないのが特徴の一つでもあるアンサンブルですが、このアルバムでは合唱パートもソリスト2人ずつの計8人で歌い、声楽と器楽のメンバー一人ひとりが音楽作りに大きな役割を担った作品です。また、一般的によく使われるポジティブオルガンではなく大きいパイプオルガンで演奏しているのも、大きなオルガンがもたらす色合いと他の楽器や声とのハーモニーも、味わいどころになってると思います。ぜひ聴いてみてください！

相田 麻純 (声楽)

自分が今歌っていられるのは、これまでに会って来た学校の先生方のおかげです。小学校の音楽の先生に声を褒められたことがきっかけで歌が大好きになり、あれよあれよという間に華やかだけれど厳しい歌の世界に入ることになりました。音楽の楽しさを教えてくださった先生方に感謝感謝の日々です。

そんな私も、2016年4月から洗足学園音楽大学にて非常勤講師として働かせていただいています。自分の演奏業との両立はなかなか大変ですが、今度は自分が教える立場で生徒に寄り添い、彼らの

背中を押す存在になれたらと思っています。

塚越 慎子

昨年10月21日にオクタヴィア・レコードより、3枚目となるソロアルバムをリリースいたしました。こちらは、コンチエルトアルバムとしてマリンバコンチエルトを2作収録いたしました。

没後10年として、また映画「シン・ゴジラ」でも再び話題となつている伊福部昭氏が作曲したマリンバコンチエルト『ラウダ・コンチエルト』。演奏時間30分という、壮大なマリンバコンチエルトとなつており、伊福部昭氏ならではの土俗的な音楽を楽しめ、マリンバの魅力のつまつた素晴らしい作品です。

もう1作は、セジヨルネ氏作曲のマリンバコンチエルト。1楽章はラフマニョフの世界観を彷彿とさせる、美しいメロディーライン、2楽章はフラメンコ風のモチーフも耳に飛び込む軽快な作品です。

また、全国各地でのソロ、アンサンブルコンサート活動に加え、11月11日に広島交響楽団第365回定期演奏会にも出演いたしました。これからも、マリンバの新しい可能性を追求し、ジャンルを問わず、さまざまな挑戦をし続けていきたいと思いま

2009年度助成

重島 清香

（声楽・ワイマール在）
ワイマールの劇場専属歌手としての生活も5年目になりました。今シーズンは、念願だった「ロッシェニのオペラでの主役、アルジーニのオペラでの主役、イザベラ役で出演します」。演出は期待と裏腹に、ビキニや下着の衣装で動き回るなどやや過激な場面もあり、正直なところ抵抗もありましたが、通し稽古では恥ずかしさを感じる事もなく、開き直り結構楽しんで歌うことができていました。公演は2週間後に控えています。

金子 平

（クラリネット）
読響の素晴らしいメンバートと日々アンサンブルを通して、充実した毎日を過ごしています。曲のイメージをふくらませると、よく留学したりユーベックの景色が浮かんできます。留学中、時にはとても孤独を感じ、冬のどんよりした天気心がけ塞ぐこともありましたが、最後の春の喜びは格別でした。最近結成して一年になる木管六重奏の東京六人組のメンバーや、その他の音楽祭で演奏仲間を増やしていくことが大きな楽しみです。

2010年度助成

酒井 有彩

（ピアノ）
この夏、ベルリン芸術大学の国家演奏家資格課程を卒業

し、6年間のベルリンでの生活にピリオドを打ちました。現在、ミラノ近郊のアカデミーにも在籍していますが、今後は日本に拠点を移して、ソロ、室内楽と演奏活動を広げていけるよう、一つ一つの舞台を大切に、努力を重ねていきたいと思っています。

2011年度助成

坂本 彩

（ピアノ・ベルリン在）
昨年6月に行われた仙台国際コンクールにて6位をいただきました。ベルリン留学5年の節目として受けたコンクールで、ホールいっぱい日本の聴衆の前でコンチエルトを3曲（！）仙台フィルと共演させていただけたいことはこの上なく幸せなことでした。本番には毎回、新しい気付きがあります。その気付きを見逃さず自身の糧とし、更に強い精神力を身につけて演奏を続けていきたいと思いま

永井 基慎

（ピアノ・フランス在）
昨年に続きパリ音楽院第一課程伴奏科にて学んでおります。6月のピアノ科修士課程修了にあたっては個人研究論文に苦戦しましたが、無事に「ラヴェルの高雅で感傷的なワルツのピアノ版と管弦楽版との相違点及び類似点について」を題材に書き終えました。前述の題材に決めたのは伴奏科で管弦楽作品のスコアをピアノで弾いた事が発端だったので、論文を書きながら

ピアノ作品において自分自身の管弦楽的発想がいかに不足していたかという事を痛切に感じました。今後も様々な編成の曲を学んでいく中で、一つでも多くの事を身につけたいと思っております。

2012年度助成

竹下 裕美

（声楽・ウィーン在）
貴財団のお陰様でウィーンでの留学を始めさせて頂くことができ、昨年より恐縮ですが有難いことに文化庁の海外派遣研修生として引き継ぎ勉強を続けております。並行して国立音大のオペラ科の卒業試験も目前に迫り、憧れの蝶々夫人と皇帝ティートの慈悲の2演目に挑むのですが、未熟な故に、やればやるほど理想と現実が離れていくため悔しく、帯を絞めると腹も苦しく、身も心も痩せこける毎日です。充実した環境で学ばせて頂けることに改めて感謝し、無事に卒業出来るよう頑張ります！

増田 桃香

（ピアノ）
長い学生生活を終えて15年の夏にサンクトペテルブルグより帰国した後、博士論文提出と学位審査へ向けて、感傷に浸る間もなく心身ともに疲弊する日々を送り、16年3月に、晴れて博士号を取得することができました。苦しいながらも、敬愛するラフマニノフと正教会聖歌にどっぷりと向き合うことのできた有意

義な時間でした。この春からは、新しい環境に身を置きながら、さまざまな形で音楽に携わり、自身の可能性がより一層広がっていくのを実感しています。

2013年度助成

谷垣 千沙

（声楽・ドイツ在）
シユトユットガルト音大のリート科を無事に卒業しましたが、さらに一年間この地で研修出来るチャンス頂きました。ドイツで暮らす留学生として「あるある」な問題はおおよそ経験しましたが、これからまだまだ出てくるであろう、ドイツならではのチャメチャメな問題に期待(?)をしつつ、まだまだ知らぬ作曲家との出会いを楽しみに勉強を続けていきたいです。

佐藤 彦大

（ピアノ・モスクワ在）
モスクワ留学も既に2年半が経ちましたが、勉強は尽きません。毎レッスンは新鮮な発見と感動があり、一生ここで勉強し続けたいですが、留学は残り一年を切り、どこまで成長できるか焦りもあります。二〇一七年はマリア・カナリス国際コンクール（2013年国際コンクールスペイン）関連の演奏会も沢山入り、現在新しいレパートリーの準備に追われております。

藤井 淳子

(チェロ・アウグスブルク在)
きつかけをくれたクロン
ベルグアカデミー
9月下旬に一週間、クロン
ベルグアカデミーというドイ
ツ・フランクフルトの近くに
て行われた二年に一度の大規
模なチェロの講習会に参加
しました。参加者数なんと約
180人。世界各国で活躍す
る10代、20代の若手チェリス
トたちが集まり、大変内容の
詰まった興味深い一大イベン
トでした。
中には私の知り合いのチェ
ロ仲間も多数参加しました
が、なかなか皆さん勉強や演
奏活動に忙しく、一度に会っ
て話をする機会がなかったの
ですが今回、新しく知り合っ
た子達との交流も含め、とて
も楽しい時を過ごすことがで
き、とても刺激的でした。
この講習会には4名のヨー
ロッパやアメリカの音楽大学
の名教授らが招かれ、レッス
ンを受講できるだけでなく、
他のクラスのレッスンも全て
聴講することができました。
各先生方、教え方や弾き方が
それぞれ違ってとても面白
く、様々な部分において、聴
いている側も今すぐ演奏に活
かせるノウハウを沢山学ぶこ
とができました。その他、教
授らを含むチェリスト達のコ
ンサートも毎晩行われ、とて
も充実した濃い内容の一週間
でした。
また、今回泊めていただい
たホストファミリーの方々は
ドイツ人と日本人のご夫婦家
族で、滞在中に面倒をみてい
ただいたり、とても良くして

頂き、また一つ、異国にて大
切な出会いがあったことにと
ても感謝しています。
そして実は私は2年前にド
イツの学校に入学して以来、
ながらくこういつた、自分の
先生以外が教える講習会へは
参加していませんでした。が、
ときにはこういう形で学ぶ
ことも、年月をかけて習得す
るものとは違った意味で、新
鮮で吸収力もよく、本当に今
回この講習会を通して多くの
ことを学ぶことができまし
た。またそれは決して演奏家
としてだけでなく、人として、
今後考えていきたい膨大な
テーマでもあります。

そして今回の参加をきっか
けに、次なるステージへ向け
ての準備やコンクールへの出
場に向けてのモチベーション
や能率アップにも繋がりが、
後ますます練習に気合が入り
そうです。また次の機会にも
是非こういった講習会に参加
しようと思っています。

2014年度助成

熊田 彩乃
(音楽・ウイーン在)

2016年1月に、R.シユ
トラウスの作品をメインに日
本でコンサートを行ったのを
皮切りに、日本で歌う機会が
増えてきました。

私事で恐縮ですが、10月に
ハンガリー出身の男性と結婚
しました。誠実で素晴らしい
人柄の伴侶を得、また、引き
続きウイーンに住み、地に足
を着けてヨーロッパでの挑戦
を続けていく覚悟もでき、喜
びを感じています。

ハンガリーの伝統的な結婚
式は、式後の晩餐からパー
ティが始まって翌朝まで楽し
く踊り続けます。足がパンパ
ンになりましたが不思議と疲
れは感じず、この地の温かな
伝統文化を全身で感じて、幸
せな思い出になりました。

浜野 与志男

(ピアノ・モスクワ在)

英国王立音楽大学大学院へ
の3年の留学のちライプ
ツィヒにて研鑽を積み、9月
末にモスクワへ移転致しまし
た。当地は幼少期より毎夏訪
れており、現在は父が赴任し
ております。これまで私の
ルーツであるロシア・ピアニ
ズムから身を遠ざけパート
リヤーを広げようという力を
育て誇りをもってロシア音楽
界の一員に、そして今後より
一層の関係強化が期待される
両国の橋渡し役となるべく活
動して参ります。

浦山 瑠衣

(ピアノ・ボストン在)

煉瓦造りの街並みに広葉
樹。アップルサイダーやパン
ブキンスパイスの香り。ボス
トンで迎える秋も六度目を迎
え時の流れを実感する。今年
は大きな選択の年。学生生活
は終えたがアメリカに残るこ
とを取得しアメリカに残ること
に決めた。地域への貢献、他
の芸術家とのコラボレーショ
ン、文化採集等々やり残した
ことがまだまだある。

2015年度助成

篠原 悠那
(ヴァイオリン・スイス在)

この秋は私にとつて大きな
出来事が続きました。9月に
第65回ミュンヘン国際音楽コ
ンクール弦楽四重奏部門で第
3位を受賞、そして7月に
9月末レマン湖とモンブ
ランを臨める静かな街ローレ
にあるメニューイン・アカデ
ミーに留学いたしました。
アカデミーでは早速室内オ
ケ本番がスイス各地であり、
来週のロンドン、パリ公演で
はマキシム・ヴェンゲーロフ
先生とパツハの2つのゴゴのた
めの協奏曲を共演します。有
意義な留学生生活を過ごせるよ
う、感謝の気持ちをお忘れず毎
日精一杯たくさんのことを吸
収したいと思っております。

2016年度助成

川口 成彦
(フォルテピアノ・アムステルダム在)

オランダは水点下になる寒
い季節になってまいりました。
ヴェルサイユ宮殿のチェ
ンバロやツンペのスクエアピ
アノなどヨーロッパでの2年
目は世界遺産レヴェルの楽器
に触れる機会が増えました。
素晴らしいオリジナル楽器と
過ごす贅沢な時間は鍵盤楽器
奏者として自分自身を磨きた
めに欠かせないので、とても恵
まれていきます。

来年5月のシューベルトの
CDレコーディングに向けて
練習に励んでいます。

上野 明子

(ヴァイオリン・ケルン在)

ケルンに来て約1ヶ月が経
ちました。レッスンや授業と
同時に手続きと引越しを終え
やつと少し落ち着いてきた頃
です。先月はオーケストラの
公演が2公演ありました。学
生は安くチケットが手に入る
のでコンサートへ行く機会も
多く、刺激的な日々を送って
います。レッスンでは毎回新
しい発見があり、貴財団のご
支援の下、このような環境の
中で学べる事に感謝申し上げ
ます。将来留学生生活を振り
返った時に悔いの残らないよ
うに過ごしたいと思えます。

八木 瑛子

(フルート・ザルツブルク在)

10月からザルツブルク
モーツァルトウム大学に学部
1年生として入学し、以前か
ら憧れていたミュンヘンフィ
ルの首席奏者ミヒャエル・マ
ルティン・コフラー氏との勉
強が始まりました。毎週1、
2回の90分のレッスンはとて
も濃く、終わった頃には心地
よい疲れを感じ、とても充実
した時間を過ごすことができ
ております。

ザルツブルク市内の教会で
は年末にかけて多くの演奏会
が企画されているので、出か
けてみたいと思います。

「海外音楽研修」「海外音楽コンクール」助成対象者一覧

(敬称略)

助成対象者		助成対象者		助成対象者	
氏名	専攻	氏名	専攻	氏名	専攻
1991年度		1997年度(続き)		2006年度(続き)	
久住庄一	声楽	早川りさ子*	ハープ	白根紀史子	声楽
妻屋和子*	ピアノ	大萩康隆*	ギター	佐藤真貴子	ピアノ
日澤聖子	ピアノ	伊藤寛隆*	クラリネット	朝吹貴子	ヴァイオリン
大友聖子	ヴァイオリン	1998年度		2007年度	
千葉純子	ヴァイオリン	黒木保里子*	声楽	中村恵理人	声楽
植村穂紀子*	ヴァイオリン	増田起久子*	ヴァイオリン	上江隼人	ピアノ
小松久明子*	ヴァイオリン	伊藤野子*	ヴァイオリン	伊藤わか水	チェロ
斎藤明子*	ヴァイオリン	新扇裕泰	ヴァイオリン	渡邊朝玲	フルート
鈴木大孝	トロンボーン	島倉雅真	ヴァイオリン	2008年度	
末木優子*	打楽器	田邊恵子	声楽	クリステン木実ウヰットマー	声楽
1992年度		1999年度		2009年度	
佐野成宏	声楽	田林織子	声楽	相田麻純	ヴァイオリン
揚志彦(a)	ピアノ	中野正太郎*	ピアノ	木嶋真慎	打楽器
田中晶子*	ヴァイオリン	野田清子*	ヴァイオリン	盛田央香	声楽
伊藤亮太郎*	ヴァイオリン	大谷清子*	ヴァイオリン	重松章彰	ピアノ
宮飛人恵子*	ヴァイオリン	瀬崎明日香(b)	ヴァイオリン	松浦文星	ヴァイオリン
富澤浩恵子*	チェロ	田中晶英	ヴァイオリン	三上彰矢	フルート
安真理子*	ヴァイオリン	清宮部小牧	声楽	高橋さやか	声楽
早梅恵子*	打楽器	諸野小広	ヴァイオリン	多清真	ピアノ
1993年度		2000年度		2010年度	
横田みぎわ	声楽	日下紗矢子*	ヴァイオリン	高橋さやか	声楽
岡有樹	ピアノ	工藤すみれ*	チェロ	島田井林	ヴァイオリン
九頭見奈奈	ヴァイオリン	シュレイファー弓	ヴァイオリン	酒井美樹	ヴァイオリン
山本千尋	ヴァイオリン	中藤井香織	フルート	小門大祐	声楽
斎藤原千二	チェロ	2001年度		坂本基里	ピアノ
萩原英二	チューバ	山本美樹	声楽	永井戸金	ヴァイオリン
1994年度		2002年度		2011年度	
樋口あゆ子	ピアノ	川村文雄*	ピアノ	林大祐	声楽
M.A.アシュリー	ヴァイオリン	椎名一朗	オルガン	間本基里	ピアノ
小清水幸醒	ヴァイオリン	日下紗矢子	ヴァイオリン	黒金寛行	ヴァイオリン
磯崎絵奈子*	ヴァイオリン	大石亮紀	サクソフォン	竹下裕美	声楽
中横赤松	ヴァイオリン	2002年度		増松本村	ヴァイオリン
赤松明	チェロ	柳原由香	声楽	上村文乃	チェロ
松岡明	フルート	長崎結匡	ピアノ	谷垣千沙	声楽
1995年度		2003年度		2012年度	
大井浩明	ピアノ	高橋野村	ヴァイオリン	竹下裕美	声楽
大森大進	ヴァイオリン	高杉高方	ヴァイオリン	松本村文乃	ヴァイオリン
志茂美都	ヴァイオリン	高杉高方	チェロ	上村文乃	チェロ
石橋菜幸	ヴァイオリン	2003年度		上村文乃	ヴァイオリン
神代修	トランペット	市原愛衣	声楽	上村文乃	ヴァイオリン
1996年度		2004年度		2013年度	
小田麻穂	声楽	山本智恵	ピアノ	谷垣千沙	声楽
山田穂子	ヴァイオリン	武藤順希子	ヴァイオリン	加藤千沙	ピアノ
上里英子	ヴァイオリン	2004年度		藤井理々	チェロ
清谷有紀子*	ヴァイオリン	富平安希	声楽	新田乃樹	声楽
大藤裕子*	ヴァイオリン	中橋有起	ヴァイオリン	濱野与志	ピアノ
安藤美生	ヴァイオリン	脇岡洋香	ヴァイオリン	伊藤瑠亜	ヴァイオリン
古川美生	チェロ	梁香美沙	ヴァイオリン	中川日出	ファゴット
中山隆崇	トランペット	2005年度		2014年度	
1997年度		2006年度		2015年度	
泉増良平	声楽	白木あい子	声楽	中佐島桃子	声楽
大高弥生子*	ピアノ	佐野聡隆	ピアノ	佐藤一也	ヴァイオリン
川崎博子	オルガン	藤村隆伸	ヴァイオリン	長尾悠春	ヴァイオリン
山崎貴子	ヴァイオリン	藤坂真	チェロ	麻生春雄	チューバ
田中貴子(b)*	ヴァイオリン	2006年度		2016年度	
		江田雅子	声楽	鈴木玲奈	声楽
		石原妙子	ヴァイオリン	木口成明	フォルテピアノ
			ヴァイオリン	上野真悠子	ヴァイオリン
			チェロ	二瓶真瑛	フルート

(注)
 ・*は海外音楽コンクール助成対象者
 (同助成は2003年度以降廃止)
 ・(a)と(b)とは同名の別人
 ・○は1年間助成を2回助成決定